

令和5年度秋田県建設業審議会議事録について

1 審議会の開催日時及び場所

令和6年1月23日（火）午後1時30分から午後3時00分まで
秋田県議会棟 大会議室

2 出席した委員の氏名

阿部公雄、伊藤 驍、伊藤隆喜、大友 円、北林一成、徳重英信、松橋雅子、松本 章、松本真一、山本博之（委員10名中、10名出席）

3 議事の概要

（1）会長選任

松本真一委員が会長として選任された。

（2）会長職務代理者の指名

徳重英信委員が会長職務代理者として選任された。

（3）議事録署名委員の指名

大友 円委員、松橋雅子委員が議事録署名委員として選任された。

（4）協 議

「建設産業活性化センターの今後の取組の方向性について」
事務局から説明した後、意見交換を行った。

【質疑応答・意見等の概要】

委 員： 協会本部の全国会議において、小野統括監等に建設産業活性化センターの取組について紹介いただいたが、全国の会員から大変好評であった。センターの取組の中で、工業高校を中心とした高校等への出前説明会を開催しているとのことであったが、もう少し対象のエリアを拡大することは可能ではないか。また、出来るだけ多くの企業が参加し、多くの生徒とマッチングできるよう検討していただきたい。

事務局： 出前説明会の進め方については、企業のモチベーションも考慮の上、毎年改善しながら進めていきたい。

委 員： 日本に残りたいという留学生が増えてきているが、秋田県には就職の受入口がない。余所に流れていかないよう、足止めを図るような取組も必要ではないか。

事務局： 外国人の人材については、働き方と同時に、暮らし方にも目を向けなければならないことから、今後、庁内の関係機関と情報共有していく。

委員： 豪雨による農地災害に対して、県内の協会員だけで対応することが困難な状況となってきたことを踏まえると、若年の入職確保と同時に、離職率の改善を図らなければならないのではないかと。

また、学校の先生方が生徒に対して建設業の普段の仕事を説明できるよう、先生方へPRする場が必要ではないかと。

事務局： 建設業の離職率は非常に高くなっている。人材確保については、県も一体となって進めていくので、入職後の離職防止対策については雇用者側で頑張ってもらいたい。

委員： 出前説明会へ参加させていただいたことにより、普通高校からの入職者も増えてきた。マッチングの機会が多くなってきたことは良いことであるが、もっとエリアを拡大しても良いかと思う。

幅広い世代が訪れる商業施設で開催するイベントは、建設業のイメージアップに効果があると思う。

女性技術者同士の交流は増えてきたが、相互理解を深めるため、男性と交流する場があっても良いのではないかと。

事務局： 女性活躍の支援となると、女性に限定した会の開催が多くなりがちだが、男性とお互いの理解を深めるような場を設けることも必要かと思う。

委員： 建設業へのイメージがここ数年で大きく変わってきたように感じている。しかし、国や県の工事では週休2日制が達成されてきているものの、市町村や民間の工事ではまだ難しい状況にある。

当県における建設業の賃金は、他産業に比べ高いようであるが、協会のアンケートによると定着率は下がってきており、企業によっても差が出ている。

2級施工管理技士の資格取得への取組状況についても、学校によって差が出てきており、地元企業への就職について、県建設部などに加え、県教育庁へももっと積極的に働きかけた方がよいのではないかと。

事務局： イメージアップもそうだが、建設業が徐々に変化していることを積極的にPRしていかなければならないと考えている。

委員： 出前説明会については、進学する場合の選択肢の幅を広げるという意味において、ぜひ普通高校にも足を運んでもらいたい。

大学でも、東北全体で情報系以外の理工学部志望者が激減してきている。けんせつ未来フェスタ等のイベントを通じて、一般の方々に地元の

建設業の魅力を知ってもらうなど、理工系への就職の選択肢を増やす取組を進めてもらいたい。

県内の高校生の建設産業への入職者数は、ここ数年150人程度に保たれているが、実際は高校生全体の数が減っているため、割合的には増えてきている。その理由を追求していければ良いと思う。

事務局： 高校生、大学生へのアプローチは難しいところではあるが、県外へ出ても、いずれ帰ってくるような動機付けを探していきたい。

委員： 先生方が各分野の仕事の内容を把握しきれていないため、生徒の質問に対して回答が不完全となり、生徒は自分で調べなければならない現状となっている。まだ目指すものが定まっていない中学生の段階から、様々な分野の仕事について説明を聞くことができる機会があれば、より興味が湧くのではないか。

事務局： 中学生に対して、ICTのような技術的な話はもちろん、仕事の実体験を紹介することも大事だと感じた。

委員： 小・中学生、保護者をターゲットとした取組や普通高校を対象とした出前説明会等を通じて、業界全体の母数を確保することが大事だと思う。

今回の能登半島地震において、職員を複数名派遣したが、地元からは危険な状況が続く中、良く対応してくれたという意見が多く寄せられた。建設産業で働く人たちは、自分達の仕事を誇りに思っていると思う。

事務局： 災害現場で働く建設業に誇りを持ち、それらを伝えていくことが大事であると感じたところである。

委員： 先生方や保護者にとっては、建設業はまだまだ古いままのイメージを持っていることから、様々な取組を通して、今の建設業はかなり変わってきているということをしてPRするのは非常に良いことだと思う。

「悩みを相談する人がいない」という若者が離職する理由の一つを踏まえると、クローバーのような交流は良いと思う。

事務局： クローバーの活動により建設業に勤める女性の数も増えてきている。悩みを打ち明ける仲間がいると思うだけでも心強い。先生や保護者の方々に、今の建設業の実態を知っていただけるよう、努力していきたい。

議長： 本日の議論を経て、建設業をPRする対象を拡大していくこと、PRするツールについてよりアイデアを出していくことが大事だと認識したところである。

事務局： 本日のいただいたご意見をもとに、本県建設産業の一層の振興に努めていきたい。